

惜しみなく与えてくれる海—愛している海、ごめんね海、ありがとう海！

1 自治体名： 忠清南道鷄龍市

2 発表者名(所属名)： ヨンナム小学校学生5名

コ・ギョンミン、キム・ヒョンホ、ヤン・ジュンギョ、ジ・テリム、チェ・ジンテ

3 活動名： 惜しみなく与えてくれる海—愛している海、ごめんね海、ありがとう海！

4 活動期間： 2015. 7.1 ~ 7.31

5 活動場所： 学校、舒川国立海洋生物資源館、始華湖潮力発電所、
海岸ヌリキル(海岸沿いの道) (端山アラメキル)

6 活動参加人数： 5名

7 活動を始めた経緯：

海に対する様々な体験活動を通じて、海について新しい理解を深めたり、豊かな海を作るために持続的で具体的な活動をして行くためのモチベーションを高めるために始めることにした。

8 発表要旨

(1) 概要：生命の根源である海！無限の資源やエネルギーを惜しみなく与えてくれる海！そんな大切な海を汚染していることに対する悲しみは‘ごめんね’というプログラムとして、海の資源の無限さは‘ありがとう’というプログラムとして、未来の海のための我々の努力は‘愛している’というプログラムとして体験活動を実施した。

(2) プログラム1 - ‘ごめんね海！’

- ・海的环境汚染に対する深刻さを理解するための映像の視聴や討論を実施し、きれいな海のために実践できる方法を探す。
- ・映像資料：ユーチューブ (YouTube) ‘ゴミ大陸地球の警告-死の災難’
- ・討論内容：海ゴミが発生する理由、海ゴミの種類や危険性、海ゴミを無くす方法、きれいな海のために我々がやるべきこと。
- ・結論：海に捨てられたゴミはロープ、ブイ、ペットボトル、ビニール、ガラス瓶などで、これらを見ると産業ゴミよりは生活ゴミの方が多い。人間の生活を便利にしてくれる物の使用後の処理を間違った結果である。このようなゴミは海の生物を脅かしたり生態系を破壊したりする。結局は人間の健康にも影響を与える。ゴミの処理方法についての研究や努力が必要であるとわかった。

(3) プログラム2 - ‘ありがとう海！’

- ・国立海洋生物資源館と始華湖潮力発電所の見学を通じて、人間が海から与えられる様々な生命資源や大切なエネルギーについて理解し、海のありがたさを考える。
- ・見学内容：国立海洋生物資源館を訪問し、展示解説士(者)の説明を聞いて様々な教育プログラムに参加し、資源館の外の干潟体験を行うとともに、始華湖潮力発電所を見学して潮力発電の原理を理解する。
- ・結果：海の生物の多様性について理解することができ、海からの利益を知ることができた。

(4) プログラム3 - ‘愛している海！’

- ・国土海洋部が選定した、海岸景観が美しく、海洋文化及び周辺観光資源が豊富な‘海岸ヌリキル-海岸沿いの道’の中で、地元から近い場所を探して、一緒に環境浄化活動を実施することによって、海の美しさを感じるとともに、広告(ポスター)やUCC(映像)を制作し、海の大切さを振り返る。
- ・見学内容：端山アラメキルを歩きながら文化遺跡を探訪し、海岸沿いのゴミ拾いをする。
- ・結果：海の保護ポスター、海を愛する内容のUCC を制作できた。